

まちづくりの現状と大変さ

0 大学：経済学部・地域政策学科・3年

期間：令和2年8月24日～28日（5日間）

私は、大学のゼミで地方創生について学び、興味を持ったため、商工会議所のインターンシップに応募した。

今回のインターンシップ実習で1つ目に学んだことは、商工会議所の業務についてだ。商工会議所自体は知っていたが、実習を行うまでは、検定試験やまちづくりを行っているなどのざっくりとしたことしか分からなかったが、この実習を通して、より詳しい業務を知ることができた。その中で中小企業や起業をしようと考えている人に対する支援に特に力が入っているなど感じた。また、現在の会員数やその目標、その中でだれが強い権限をもっているか、道路を借りる際にどこに許可をだすかなどの詳しいことについてもたくさん学んだ。

2つめに学んだことはまちづくりの事とその厳しさについてだ。当然、インターンシップ実習を行う前から地域を盛り上げる事の厳しさはわかっていたが、地元の現在の状況を改めて間近に見ることやお店の人の話を聞くことによって、より詳しく知ることができた。その中でその地域を盛り上げるためには、地元のお店や企業の力が必要不可欠だなと感じた。チェーン店を集めるだけでは、当然他の地域も行っているため、かなり厳しい競争になってしまう。そこで、地元のお店を盛り上げて、その地域特有の魅力を引き出していくことが大事だと思った。

このまちづくりに関することで特に印象に残ったことが2つある。1つ目は、現状を見る際に商店街やその周辺のお店を周ったことによって、自分が知らないようなたくさんの魅力を持つお店が地元にはたくさんあることが分かった。しかし、その魅力を周りに伝えることが難しいため、どのようにすればこの魅力がもっと広まって、人が集まるようになるのかなと思った。2つ目は、「まちづくりには終わりはない」という言葉だ。例えば、まちづくりに成功してその地域が盛り上がり、人が集まった場合、そこでまちづくりをやめてしまったら、その地域は廃れていくかのうせいがある。この言葉について聞いた際は、まちづくりは、その地域が発展したら終わるのではなく、その状況を維持することや更に発展させていくことだと私は改めて思った。

3つ目に、応接室でのマナーや名刺の受け取り方や差し出し方、電話対応マナーなどのビジネスマナーを学んだ。応接室などに上座や下座があることは知っていたが、エレベーターにもあることは知らなかったし、電話を受け取る際は、ベルが2コールの時に出るなどのマナーを知らなかったため、とてもためになった。特に先に話してからお礼をする、語先後礼や電話を受け取る際は最後に名乗るほうが良いなどが特に重要だなと感じた。

このインターンシップ実習を通して、商工会議所の業務やまちづくりに関することなどの地方創生に関することやビジネスマナーなどの様々な分野でも生かせることも学んだ。住んでいても気づかないような魅力がたくさん詰まっている。しかし、その魅力を最大限に引き出すことや周りに伝えることの難しさを改めて感じた。現在、大阪に住んでいるが、都会ならではの経験などをインプットして、地元で活かしていくなどの今の自分だからこそできるような形で貢献していきたい。

「ブライダル」と「デザイン」の共通点

YK大学：国際文化学部・文化創造学科・3年

期間：令和元年9月12日～16日（5日間）

私はこの夏休み、結婚式場のインターンシップに参加した。ブライダル業界のインターンシップへの参加を決めた理由は、単純に個人的な興味があったからだ。私は、結婚とは人生の節目になる一大イベントであり、式を挙げる人たちにとってはとても幸せなことであると考えている。そして、結婚式はその幸せを象徴するものだとも思っている。そのため、その結婚式が執り行われるまでにはどんな工程が踏まれるのか興味があった。

今回のインターンシップは本当に緊張の連続だったが、同時に、とても新鮮な体験になった。「会場をつくる」という方面では、バンケットを体験させていただいた。テーブルクロスの畳み方と掛け方、グラス拭きや食器のセッティングなどだ。結婚式の引き出物を作ることも関わった。また、実際の披露宴に立ち会う機会も三日目にあり、そのときは実際会場に出てお客様への対応をした。私は接客業を経験したことがなかったため非常に不慣れだったが、社員の方の指導のもとどうにかやりとげることができた。また別の日には衣装部の仕事も体験させてもらったが、こちらは案外体力仕事で思ったよりも苦戦した。衣装部と式場は離れたところにあり、新郎新婦やその両親が使用する衣装、会場のマネキンに着せるドレスの搬入や回収など、ドレスが見た目以上に重く移動に体力を要した。貸し衣装のため、レンタル期間が重複したりしないか、いつ戻ってくるのかなど、情報が綿密に管理されていた。ただ、貸し衣装屋だからといって衣装の管理だけしていればいいというわけではなく、衣装に迷う新郎新婦に対して、理想に近いものやその人に似合うもの、実際の会場に映えるものなどを、色やモチーフまで考慮に入れて提案する必要がある。そうした関係性を築くまでには通常半年から一年程度の時間が必要で、また、人に提案するためには自分自身がきちんとした知識を持っていないといけない。そういう意味で、知識欲、知識量と、コミュニケーション能力が求められる仕事だ。

私は今回のこの経験を通して、結婚式を構成するまでの流れには、私が現在大学で勉強しているような「デザイン」にも通じるものがあるかも知れないと感じた。結婚式はその主役となる新郎新婦の意見を反映して形作られるもので、漠然としたイメージから具体例を提示するなど、スタッフの手で実現の可能性を高める必要があるという。そこにはやはりその新郎新婦らしさが出るもので、実際現場のスタッフも、「似たようなものを見たことはあるが、まったく同じものは見たことがない」と話していた。学校で何かをデザインする際にも、与えられたテーマに対して考えを膨らませ、それを自分の手で実物に起こしていく。

私は今回、その「デザイン」にあたる部分には深く関わることはできなかったが、より「現場」に近いところでそれを学ぶことができ、また、自分の「デザイン」に対する意欲を高めることもできた。今回得たことを、これからの制作や、最後の卒業制作まで活かしていきたい。

これからの目標

Y大学：現代ビジネス学部・

国際観光ビジネス学科・3年

期間：平成30年8月28日～31日（4日間）

今回のインターンシップに参加して最初はホテルではお客様に接することが第一の仕事だと思っていました。ホテルに泊まるために来られるお客様に宿泊先を提供することであるため地元の人たちとは関わりが少なく県外や海外のお客様に目を向けていると考えていました。しかし、実際にインターンシップに参加して私が考えていたこと思っていたことのほとんどを覆されました。各部署の様々な方のお話を4日間通して聞く中で自分なりの仕事の向き合い方があることが分かりました。その中で準備を大切にされていることには驚きました。ホテルならではの非日常を提供するためにお客様の要望に沿った空間の提供を机や椅子の位置などから感じでもらうために場合によっては2～3時間かけて作っていく作業にはマイクやプロジェクターなどの機械の知識も必要になる事が分かりました。また、どの部署の方々もおっしゃっていたのがコミュニケーションの大切さです。フロントでは24時間人が立っているため引き継ぎが大切になります。他にはウエディングプランナーは当日までお客様と話し合いをして決めたことを当日は婚礼・宴会の方に受け渡します。多くの部署があり仕事内容が違うということはそれだけ受け渡し、共有が大切になってくる事がお話を通して本当によく分かりました。さらにお客様の要望に沿った演出をする際には最近の流行やニュースを常に把握していないといけません。幅広い知識を身に付けるだけでなく、人生に一度の結婚式を挙げるお客様からこんな感じの式にしたいという思いや考えを読み取り形にしていくために聞くだけでなく提案していく力も必要になる事が分かりました。そこには経験が何よりも大切になり一つの事をこだわってするのも大切ですが広い視野を持つためにも自分の興味を広げていく事が出来る人が思い出に残る物が作れると強く感じました。

4日間のインターンシップに参加して私は残りの学生生活でやってみたいことが増えました。一つ目は将来の日本に関する本を読むことです。少子高齢化や地域格差、インバウンドなど様々な視点からこれからの日本はどうなっていくのかを知り自分はどんな将来にしたいのか広い視点を持って考えていきたいです。二つ目は今しかできない経験をしっかりしておく事です。旅行やバイトを残りの学生生活以外でも興味を増やし働くことがどのようなことかを実際に体験することで広げていきたいです。また、今回山口のホテル事情を聞きまだまだ地元の事を知らないなと感じました。広島に大学に通う中で外から見た山口、地元だからこそ分かることを両方の視点から考えてみるのも面白いなと感じました。三つ目は企画・広告について知りたいなと思います。実際にプレゼンテーションなどをやる機会が大学でもありますが今回さらに実現するために費用や利益、ホテルだけでなく周りのお店について調べたりするなど知らなかったことがたくさんありました。これから買い物やレストランに行った際など広告に目を通す興味がわきました。学生から社会人になっていく為に大切なこと今の内にできることなどを実際に聞くことができ貴重な体験をすることが出来ました。

リアルな仕事を経験して

B大学：文学部・人文学科・3年

期間：平成29年8月14日～18日（5日間）

5日間にわたるインターンシップは、私にとって素晴らしい経験になったと同時に驚きの連続でした。旅行業界に興味を持ち、実際に業務を体験させて頂いたのですが、私が想像していたものとは全く違い、はるかにすごい職業でした。旅行会社というと、カウンターでお客様に接客するような旅行代理店を想像していたのですが、むしろ外回りをして仕事を探していくような営業スタイルだったことに非常に驚きました。

初日は、支店長さんと山口で開催されていた西日本医学生体育大会にご一緒させて頂き、お弁当配布と遠方から来られた団体の宿泊やキャンセルの手配を経験しました。こちらの会社では、県内で開催される大会を手配する仕事の主であるという聞いて、お客様に旅を提供するだけが旅行会社の仕事ではないのだと学びました。また、その大会は4日間にわたり行われ、各団体の試合結果によって宿泊やキャンセルの手配が変わってくるので、試合を観戦し結果を待ち続ける忍耐力が必要だと思いました。

2日目は、学校担当の方に同行させて頂き、県内の高校や県庁などを回りました。学校担当と聞くと、修学旅行をイメージしがちでしたが、それだけではなく部活の遠征の宿泊やバスの手配などもしっていて、旅行会社の仕事は多岐にわたるのだと思いました。よく耳にするのが、旅行会社は仕事のノルマが厳しく残業は当たり前ということだったのですが、社員の方々にお話を聞くと、仕事の量は多いが、自分で工夫することによって時間短縮ができるようになることを教えていただきました。早めに職場に来て仕事をしたり、優先順位をつけることで、自分の時間を確保することができるというとても納得しました。

3日目は、支店で指示された作業と行程表を作りました。屋内での作業はこの日が初めてだったのですが、支店への電話が鳴りやまずにピリピリとした空気感を味わいながらの作業でした。行程表の作成は、目的地にたどり着くまでの交通手段や時間を計算しながら考えていく作業なので、自身が旅行する時のようなアバウトな計画は立てられず苦戦しました。広島の日帰り旅行で、予算は7,000円から10,000円の条件の中でプランを考えましたが、その県の有名な観光地や流行っているものの知識があまり無かったので、ありきたりな行程になってしまいました。担当して下さった社員の方からは、プランを考える際に、「その旅行で何を一番大事にしたいのか」を際立たせるワンフレーズが必要であると教わり、行程表を作る難しさと楽しさを学びました。

4日目は、社員の方に同行させて頂き、周南や岩国方面の学校関係や一般企業の営業に行きました。ある高校に修学旅行の行程表と見積もりを持っていき、それに先生方が納得され、企画が採用されたときの担当の方の笑顔がとても印象的だったと思います。

今回のインターンシップは、自分が目指したい職業を体験でき、社員の方の仕事に対するリアルな声を聞けるなど素晴らしい経験をさせて頂きました。この経験によって、自分に不足している知識や新たな課題を見つけ、旅行業界へ行きたいと思う気持ちが強くなりました。貴重な体験をさせて頂き本当にありがとうございました。